

絵本の中では、すえっこやおちびさんが大活躍。
主人公に自分を重ね合わせてお話を楽しむ小さい子ども
たちは、そんな主人公の活躍に大喜びです。



しょうぼうじどうしゃじぶた

渡辺茂男／さく 山本忠敬／え
福音館書店

小さい消防車じぶたは、ぼや火事専門。大きな火事で活躍する仲間をいつもうらやましく思っていました。ある日、となり村の山小屋が火事になりました。けれども狭く険しい山道をいけるのは、じぶただけです。小さいじぶたに、そんな大仕事がつとまるのでしょうか。



きつねとねずみ

ビアンキ／さく
山田三郎／え
内田莉莎子／やく
福音館書店



はらぺこあおむし

エリック・カール／作
もりひさし／訳
偕成社



ティッチ

パット・ハッチンス／作・絵
石井桃子／訳
福音館書店

ほかに『ぶかぶかティッチ』（福音館書店）
『きれいずきティッチ』（童話館）があります。



ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ／ぶん・え
とくながやすもと／やく
福音館書店

ラチは、世界中でいちばん弱虫な男の子。暗い部屋もこわいし、友だちさえもこわいのです。そんなラチの前に、小さいけれどとても強いらいおんがあらわれました。そして、一緒に強くなる体操をはじめることになりました。

どんな子どもでも持っている弱虫な部分と、強くなりたいという気持ちにぴったり寄り添ってくれるおはなしです。

絵本と楽しくつきあうコツ②

同じ本ばかり読んでほしいとせがみます

「この本読んで！」「えー、昨日も読んだじゃないの」

こんな会話をしたこと、一度はあるのではないのでしょうか。大人は「また？」と思ってしまいますが、思った通りの言葉や場面が出てくることは、大人が想像する以上に、子どもに喜びと安心感を与えます。

大好きな1冊とめぐりあえたことを共に喜び、読み手も一緒に楽しんでください。絵本の内容はもちろんのこと、読んでもらった記憶、読んでくれた人の声は、「宝物」として子どもの心にいつまでも残っていくことでしょう。